

古川なおきレポート

自由民主党横浜市議員 古川なおきの政務調査報告

一月刊一 2011年3月18日



東日本大震災への横浜市の対応

東日本大震災の被災者の方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします。危険を顧みず不眠不休で懸命に救助にあたられている自衛隊、消防、警察、自治体職員の皆様に敬意を表します。今後とも自治体関係者には全力で救助に対応していただきたいと思います。かけがえのない命を全力で救っていただきたい。

横浜市も災害対策本部を設置して対応にあたっています。被災地への救援活動として、災害直後にヘリコプター1機を東北方面へ出動、宮城県、福島県、千葉県へ消防隊約140名を派遣、さらに政令市の災害時における相互応援協定に基づき、仙台市へ毛布10,000枚を輸送し、約80名の職員を派遣しています（詳細は2面）。甚大な被害状況は刻一刻と報道により伝えられています。今後とも被災地から横浜市に支援要請があり次第、迅速に対応できるよう、援助体制を整えていただくことを横浜市災害対策本部に伝えました。

現在も東京電力福島第一原子力発電所の事故が大変心配です。市内の放射線量はホームページで3時間ごとに公表するようになりました。計画停電の情報も遅いため、迅速、正確、公平に対応するよう横浜市長名で東京電力に要望しました。私たちも多少不便ですが、家もなく水や食料が不足し苦しんでいる被災者の方々の支援のためにも節電に協力し、募金や救援物資を送らせていただきたいと思います。尚、インターネットを利用しない高齢者の皆様に対して、今後とも正確な防災情報を周知徹底するよう、横浜市災害対策本部に要望しました。国難とも言える状況を日本国民全員で協力し、一日も早く被災地に復興していただきたい。横浜市内にも被災者のご親族や知人がお住まいで、心配していらっしゃる方もおられることと思います。私も、横浜市の被災地への対応や、市内の防災対策に全力でがんばります。

横浜市では、各区で震度5弱以上、中区は震度5強を記録し、電車が不通になったため、多くの帰宅困難者がパシフィコ横浜や横浜アリーナなどの施設に宿泊されました。私も当日は横浜市役所にいました。強い揺れが収まった後、仲間の議員と災害対策本部から情報を収集しました。市内では残念ながら2名の方がお亡くなりになり、旭区内では火災が一件発生しました。帰宅困難者への対応では鶴ヶ峰駅南口の市民活動支援センター「みなくる」に約10人、左近山第二小学校に数名の方が宿泊されました。一部の小学校では、ご両親が帰宅できず深夜から翌日にかけて児童が教員と過ごしたようです。ご尽力いただいた地元町内会役員、区役所職員、教員の皆様、本当にお疲れさまでした。

災害が発生していつも思うことは、まずは自分の身は自分で守る覚悟が必要だということです（自助）。それでもダメなら近くの人に助けていただく（共助）。それでもダメなら行政へ救助を求める（公助）。救助を求めても、市の職員や消防職員も被災者となる可能性がありますので、まずは自分の身は自分で守らなければなりません。私たちも今後の余震に備え、水や食料の備蓄、薬などを分かりやすい場所に用意しておくこと、避難場所の確認など普段から防災のために自分でできることを行わなければならないと思います。そして、最大の防災対策は、隣近所と親しくし、仲間を作ることだと思います。日本社会は無縁社会などと言われていますが、今こそ、地域の絆を育み、皆で助け合っていきましょう！

余震や福島原発事故の心配、計画停電などもありますが、元気を出して、横浜から被災地へ向けてエールを送りたいと思います。
「がんばろう東北！」「がんばろう日本！」

横浜市議員 古川なおき

追伸：今回は大震災が発生したため号外を発行させていただきました。今号が任期中に発行する最後のレポートになります。今までご愛読いただきましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

今回の巨大地震において様々な困難な状況を受けたものと思います。こんな地震の怖さから抜けだし、安心して普段の生活に戻りたいと感じていらっしゃると思いますが、今回の地震の恐ろしさはまだ終わったと断言はできません。今後首都圏で震度6強以上の地震が起きる可能性も指摘されており、油断することができない状況です。このような状況ですが、私たちが地震対策として出来ることはまだ残されています。仮に地震が起きたとしてもそれに対して「備え」をすることです。1人あたり飲料水は1日30、食料品は3日分を確保してください。まず自分の分を確保することが大切です。また、次の地震が起きたときに家族の間で連絡を取れるように家族の中で話し合いをし、帰宅困難者になったときの対応も考えてください。各自治体で帰宅困難者対策を行っていますので、無理に帰宅しようと思わず、近くの自治体の支援を受けて下さい。家の中の対策としては家具の転倒によるケガを防ぐために家具の固定を行っていただきたいと思います。以上が簡単な地震対策ですが、自分の身を自分で守ることが1番の防災です。ぜひとも冷静にこの状況を乗り切っていただきたいと思います。また、被災地でボランティア活動を行いたいと考える方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし現段階では個人の行動は現地では迷惑になり、二次災害に巻き込まれる可能性もあります。お気持ちはぜひ義援金という形で示していただければと思います。

横浜市の被災地への応援状況

- 11日 東北方面（岩手県宮古市重茂半島）①へ緊急消防援助のため、消防隊員2隊10名を派遣（ヘリ1機含む）
11日 千葉県市原市ヘガスタンク火災消火のため、消防隊員4隊21名を派遣（大型化学車、高所放水車、消防艇「まもり」含む）
11日 茨城県から仙台市①へ、緊急消防援助のため、消防隊員8隊39名を派遣
12日 岩手県宮古市②へ緊急消防援助のため、消防隊員2隊11名を派遣（宮古市①と交代）
12日 仙台市水道局へ、先遣隊として、水道局職員4名を派遣
12日 千葉県水道局へ、応急給水のため、水道局職員6名を派遣（給水車2台、パトロールカー1台含む）
12日 福島県福島空港へ、指揮支援活動のため、消防指揮支援隊5名を派遣
13日 茨城県へ、現地調査のため、水道局職員3名を派遣（パトロールカー1台含む）
13日 仙台市へ、応援活動調整のため、消防局職員4名を派遣
13日 仙台市へ、し尿収集、5万個運搬のため、資源循環局職員12名を派遣（バキューム車3台含む、16～22日にも計28名派遣）
14日 仙台市へ、水缶62,400本運搬のため、総務局職員1名を派遣（トラック3台）
14日 仙台市②へ、緊急消防援助のため、消防隊員6隊40名を派遣（仙台市①と交代）
14日 岩手県宮古市③へ緊急消防援助のため、消防隊員2隊12名を派遣（宮古市②と交代）
14日 仙台市へ、応援派遣第1陣として、各局職員計31名を派遣
14日 福島県郡山市へ、応急給水のため、水道局職員6名を派遣（給水車2台、パトロールカー1台含む）
14日 岩手県大船渡市へ、健康福祉局職員3名を派遣（17日に市大センター病院の医師2名看護師1名、21日にも3名、計10名派遣）
16日 仙台市へ、応援派遣第2陣として、各局職員29名を派遣（18日に28名、20日に27名、22日に第5陣27名を交代で派遣）
16日 仙台市へ、下水管きよの調査のため、環境創造局職員7名を派遣（20日、22日にも計7名を派遣）
19日 福島県へ、第一原発20～30km圏内の病院に入院していた患者を中継地から搬送するため、消防隊員7隊23名を派遣
22日 福島第一原発における使用済み燃料への冷却活動のため、消防隊員9隊67名を派遣（高所放水車、特殊災害対応車等を含む）
22日 いわき市へ、応急給水活動のため、水道局職員6名を派遣（給水車2台、先導車1台含む）

福島第一原発で活動中の緊急消防援助隊の活動状況について

- 22日 現地（総合指揮隊・Jビレッジ）到着後、東京消防庁、大阪市消防局と活動概要、現場車両・資材配置状況、防護服の着脱・脱衣場所、横浜市の主任務（3号機に対する冷却放水活動の継続）等を引継ぎ
23日 16時～18時 横浜市消防局により、3号機に対する放水活動に着手

被災者の受け入れについて

- 一時避難場所の提供
①たきがしら会館（横浜市磯子区）約300人（22日現在79人入所）
②横浜市青少年自然の家「赤城林間学園」約300人 ※避難者の輸送のため、横浜市交通局のバスを使用
- 住まいの提供…横浜市営住宅50戸（旭区ひかりが丘団地）、横浜市住宅供給公社賃貸住宅37戸を県と連携し提供。

被災者からの電話による総合窓口の開設

電話番号：045-671-4410

開設期間：3月24日～当分の間（土日・祝日含む）

開設時間：8：45～21：00

内 容：今回の地震に伴う被災者支援に関わる電話相談

福島県原発事故に伴う「放射線に関する健康・食品電話相談窓口」の開設

電話番号：045-671-2470

開設期間：3月23日～当分の間（土日・祝日含む）

開設時間：8：45～17：15

内 容：福島原発事故に伴う、避難者及び市民からの放射線に関する健康・及び食品についての電話相談

横浜市による東北地方太平洋沖地震義援金の受け入れ

横浜銀行横浜市庁舎支店 普通 6007302

口座名「横浜市東北地方太平洋沖地震募金」

※窓口を利用する場合のみ振込手数料が無料になります

旭区役所、二俣川行政サービスコーナーにも募金箱を設置しています

3月22日現在、約4,300万円が口座に入金されています。

皆様、本当にありがとうございます。

古川なおきプロフィール

県立希望ヶ丘高校・明治大学 卒業/明治大学公共政策大学院 修了

横浜銀行勤務後、衆議院議員松沢成文（現在神奈川県知事）秘書

平成7年4月 横浜市議員初当選（26才最年少）

平成19年4月 4期目当選

現在 平成22年市民・消防委員会副委員長 / 市会運営委員会 理事

自民党横浜市議員団所属/横浜市会FCキャプテン

希望ヶ丘高校同窓会桜蔭会 評議員/ 学校法人横浜商科大学 評議員

旭区サッカー協会顧問/旭区スポーツダンス協会顧問/旭区卓球協会顧問



お気軽にご連絡ください。

FAX: 045-366-9700 / TEL: 391-4000

E-Mail: naoki@furukawa2002.com

みなさまのご意見
お待ちしております

古川なおき政務調査 事務所

〒241-0825 横浜市旭区中希望が丘252-50

URL: <http://www.furukawa2002.com>

